

## キタ狐の長期投資戦略

... 赤松教授の雁行形態論から学ぶ事 ...

### I . 序 キタ狐と日本経済 (自然法に従う)

#### 1 キタ狐物語

20年ほど前にテレビで見たキタ狐物語にまことに不思議な場面があった。突然狂ったように親狐が子狐に襲いかかって追い払おうとする。突然の親狐変貌に子狐は心臓が止るほどのショックを受けるが、やがて一時の戯れとは見えない親狐に、冷厳な人生いや狐生の孤独(狐独?)を感じつつ深い悲しみの中に何やら分らずに去っていくのである。たった一匹で生きていくこと、これがキタ狐が一人前になる時に通らねばならぬ残酷なまでに非情な過程なのである。何ゆえに自然はこういう不思議な元服の儀式を用意するのだろうか。サン・リオのカメラは美しくこの情景を捕らえる。涙さえ凍りつくような厳しい自然の中で子狐達がはやがて、親と共にあった暖かい巣を去ってとぼとぼとあてもない放浪の旅へと出かけなければならない。かれらを待つものは楽しかりし幼時の追憶をすら許さない厳しい闘いの生活である。この闘いが激しく厳しいものであればあるほど、おそらく親ばなれの断絶の儀式もまた冷厳なのだろう。

#### 2 適者生存とグローバリズム

自然界の自由競争は療境に適したものを生かし、不適合なものを滅ぼすと言うのがダーウィンの「種の起源」を貫いている思想である。自由市場メカニズムの基本原則はこのダーウィニズムに基づいていて、市場に適合したものは生き残り、不適合なものは威び去らねばならない。だが、現実の人間社会では全くの自由放任下で競争が行われているわけではない。そこにはさまざまな人為的介入が行われて? 適者生存法則が余りに冷酷に働くのを緩和する政策が行われる。

その形態や程度は、歴史的・文化的・倫理的条件によって異なり、社会の時代的価値観によって様々な様相を呈する。日本は明治以後、欧米にキャッチアップすべく政府主導型の経済発展をとげてきたために、公的な介入・保護は欧米に比して極めて大きく、特異な型をなして来た。だが、1960年代の所得倍増政策始め、工業化の選択と高成長の世界的マーケットの一致などがあって、奇跡といわれる高度成長をとげた。U ンドン・エコノミスト誌などは2度にわたって日本経済の奇跡を特集したほどである。企業経営についても日本型がおおいに研究され、米国は日本の長所の吸収につとめた。

#### 3 衰退の兆し

だが高度成長をいつまでも続ける事は難しい。高賃金はコストにはねかえる。これがマクロの競争力と両立するためには、産業構造の不断の高度化を行い、競争力を失ったセクターから、知識・技術集約的部門に不断に変化していかなければならない。

しかし、人間はどうしても安きにつく悪癖を捨てきれない。地価の恒久的(と思われた)上昇によるバブルが去ってみると、本当に競争力のある未来型部門でなく、いびつな古物に囲まれた経済が残され、不良債権の山が・子孫の肩に重圧を加えている。

#### 4 再生への途

キタ狐の逸話を考えてみる必要がある。本当に将来を切り開ける部門を全力をあげて伸ばさなくてはならない。銀行は、命をかけてこういう企業者には金を貸さねばならない。国民もまたベンチャーキャピタルを投資すべきだ。凍り付いた野原を走って見なければならぬ。幸い、まだ体力はある。ロボット、ナノテク、バイオを伸ばして動態的国際分業(大来佐武郎氏や小鳥清氏によく使った用語)をすすめる事、これが中国やNIESに対応する道である。

### II . 構造変革の基本原則

- i) リカード原理の動態化の必要
- ii) 動態的国際分業と日本の将来

### III . 日本経済の構造変化と雁行形態論

- i) 貿易・産業構造・資本移動は三位一体
- ii) 日本の過去の構造変動パターン  
RCA ( Revealed Comparative Advantage )
- iii) 日本経済の強さの検討
  - 起.....良好
  - 承.....良好
  - 転.....?
  - 結.....?

### IV . 政府の役割 ( 小さな政府を目指せ )

- i) 変革の方向を示すなど最小限にとどむべき
- ii) 教育、医療、治安、国防
- iii) 同情心ある社会を育てよ  
スミス...道徳情操論...住み良い社会の要因
- iv) 中小企業の人間的側面の見直し

### V . 輝く未来は可能か

- i) 人間の心を大事にする政策と科学の振興  
宇沢、ホーキング、ジェイコブス...
- ii) 人間 ( 宇宙または自然 ) この未知なるもの

以上

## 報告と討議の記録 ( 辻 宏 )

「キタキツネ」の生態から、日本経済の進むべき方向を提案されたもので、平易な説明の中に大変示唆に富んだ内容の報告である。

( 報告の要旨 )

- ・ 中国 / 日本は、当分の間、労働集約的 / 高度知識集約的と、国際的な動態的分業で補完しあう。
- ・ かつて、10 年程前に、篠原三代平教授は日本の建設投資過多を警告、経済の比較優位に無関係に、ゆがんだ経済投資に対し、構造変動の要、インフレ要因の是正を説いた。
- ・ 小島清教授らの RCA ( Revealed Comparative Advantage ) 実証研究から、過去は構造変化が上手く変化していたことが示される。世界に協調してゆける自由貿易論的な比較優位分野の New Frontier への選別投資が勧められる。
- ・ 政府の役割
  - 貿易 / 産業構造 / 資本移動の三位一体で世界に通ずる物作り
  - 規制を廃し、業界のリーダーの自由に任せる
  - 国際的に個人の自由の効くシステム作り
  - 雁行形態論に学び、非効率投資を廃し、**opportunity loss** を避ける
  - 政府は教育、医療、治安、国防などの社会的共通資本に中心を置く
  - 中小企業の技術を起業とし、政府は不介入
- ・ 同情心ある社会の建設
  - アダム・スミス **Invisible Hand** の自由競争に、倫理と **Compassion** を説いている。
  - 今や自由放任理論の中の道徳論の見直しの必要
- ・ 未来の展望
  - 人間の心を大事にする政策と科学の振興：
    - 宇沢弘文
    - ホーキング 人間は宇宙の部分、但しその知能は優れている(「未来を語る」)
    - キタキツネは無縁ではない、
    - ジェイコブス ゾーニングなど都市計画に反対、本質を追及(「経済の本質」「経済の倫

理」)

建設投資でなく、教育、技術に重点、  
R.オザキ 事業 = 利益でなく人間中心に置き換える日本独自の経営を、欠陥  
を除きリシャッフルした 21 世紀 “ 日本型 ” を伸ばすこと  
(「国境を越える日本型経営」(Human Capitalism))

協調方向の論理：

雁行形態論の行方が、同質化・ブロック化であるところから、小島教授は協調の必要を提案  
(討議)

- ・米国の **Concept Supplier** に対して、日本は **Product Supplier** と違いがある。
- ・雁行形態論は実証理論であるが、予見的な政策に適用するには、制約がありそう。

以上